

注意事項

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【タイトル】

スーパーマジック大戦〜最後の希望〜

【作者名】

くずたまい

【あらすじ】

仮面ライダーウィザード“操真晴人”は、ファントム残党との戦いの途中、謎の魔方陣により転移させられてしまう。謎の世界に飛ばされた晴人を待ち受けていたもの……それは強大な敵と、世界の危機、そして“魔法使いたち”であった。

果たして彼らに、世界の危機を救う事ができるのか!?

投稿日

予告

灰色にひび割れた鎧。全身に走った幾本もの血線。頭部には凹凸のない覆面のような人相と、二双の角。

とても人とは言えぬ悍ましい化け物の名は『ゲール』。彼らにまともな思考能力はない。主の命令に従い破壊を撒き散らすだけだ。彼らの標的にされた人に希望はない。絶望の淵に追い落とされるまで、彼らにその心身を弄られるだけである。

その恐ろしい怪物が十数体。たった一人の標的を取り囲んでいた。誰もが絶望する状況。ただし、それはただ“人”の場合だけだ。

「やあ、ショータイムだ」

余裕さえ感じる声音で告げたのは、宝石を象った赤い仮面の男。彼は魔法使いを連想させる黒のマントを靡かせ、悠然と左手の指輪を小さく掲げる。

彼こそが、指輪の魔法使い・仮面ライダーウィザード”。絶望に追い落とす存在がゲールならば、ウィザードは絶望から救い出す最後の希望。ゲールとは対を成す存在であった。

「それじゃあ、さっさと『ファントム』にお出まししてもらおうか」

『ファントム』とは人間が絶望する事により生まれる化け物だ。ウィザードと仲間の魔法使いたちの尽力により、彼らファントムの首領は倒された。しかし、彼らは全てが滅ぼされた訳ではなく、このように散発的にゲールを産み出し、街を襲っていた。ウィザードは人が絶望し、再びファントムが生まれぬ様に、戦い続けていたのだ。

ゲールを幾ら倒しても、絶望の根源は断てない。彼らを倒して、親玉であるファントムを炙り出さなければなかった。

ウィザードはゲールが動き出す前に、一点に向かって駆け出す。

グールはその手に持った槍で迎撃するが、それは決してウィザードを捉える事は出来ず空を斬る。

ウィザードはまるで舞うかのように、槍を躲し蹴りを放っていた。そこに荒々しさはない。澱みなく流れる嵐脚は流麗であり繊細であった。しかし決して弱い訳ではなく、むしろ力強く敵を刈り取っていく。

「フィナーレだ」

大方のグールが傷つき倒れ伏した所で、ウィザードは手形の文様が描かれたベルト　ウィザードライバー　を操作してから、一つの指輪を右手中指に付け、右手をベルトに重ねる。

『チヨーイイネ！　キックストライク！　サイコー！』

と、音声が鳴ると同時に、赤色の魔方陣が地面に浮かび上がる。ウィザードはマントを鋭くはためかせ一回転。傲然と構えると、その右足には魔力が凝縮されていき、一塊の炎が生まれた。

魔力が霧散しないよう、細心の注意を払いながら、しかし大胆にウィザードは跳躍に入る。

「はあああつ　　」

うなり声を上げなら、ロンダートで助走を一つ。着地と同時に地面を大きく踏み切ると、中空高く飛びあがり、グールに向かい回転、加速。

そして、

「だあああつ！！」

途上のグールを薙ぎ払いながらウィザード。向かう先は、倒れ伏

したグールたちの中心地点。着地と同時に、熱波でグールを文字通り粉砕する。そのはずだった。

「なっ!?!」

ウィザードが驚きの声を上げる。彼の向かう着地地点の中途、そこに見た事の魔方陣が浮かび上がっていたのだ。彼の直感が、あれに触れてはならないと訴えかける。しかし、加速度的に上がるキックストライクを止める事は、如何にウィザードでも無理だった。

高速のウィザードが魔法陣が突撃する。しかし、起こるはずの爆発が起きない。

黒い魔方陣が消失する。残ったのは、ダメージを負ったグールのみ。そこにウィザードの姿はない。

それもそのはず、ウィザードは魔法陣を突き破ったのではなく、全身を魔方陣に飲み込まれていたのだ。

こうして、仮面ライダーウィザード 繚真晴人 はこの世界か

ら消え失せ、世界を巻き込んだ大戦へと巻き込まれるのであった。

「どこ、どこか知ってる?」

「私の知らない場所なのは確かだね」

それは幾多の世界を巻き込んだ、恐ろしき実験。

「俺は繚真晴人。君は?」

「パチユリー・ノーレッジ……って、呑気に自己紹介している暇もないみたい」

襲い掛かる数多の強敵たち。

次第に追いつめられていく彼らを助けたのは、意外な人物であった。

「私の名前はバ MMI。信じられないかもしれませんが、魔法少女です。それでこちらの方は、」

「兄さん、いい根性だ!! 気に入った!!」

戦いを通して明かされていく、悍ましい計画の正体。

「私は霧雨魔理沙。何となく、お前とは気が合いそうだ」

「う、うん。よろしくね、魔理沙ちゃん」

今ここに、魔法を掌る者たちが集う（一名除く）。

「はああ……やっぱり、ガッシュ君って可愛い」

「ぬおおおっ!! や、やめるのだ、フェイト〜!!」

数多の世界の危機。

彼らは世界を守るために、力を合わせ戦う。

「削板さん、一緒に必殺技を考えませんか？」

「ん？ 俺にはすごいパンチが」

「駄目です。名前に根性がありません」

「!？」

降りかかる敵の謀略の数々。

「ぶりいいいいっ!!」

「ガッシュ君!! ブリは空を飛ばないよ!？」

しかし、結束した彼らを止める事は叶わない。

「マスタースパーク！」

「ディバインバスター！」

「ティロ・フィナーレ！」

「プラスマスマツシャー！」

「オーバーキルだから、もうやめなさいよ!!」

困難を乗り越え、生まれる絆。

「晴人……私……」

「パチュリー……」

「こんな灰汁の強すぎる面子の引率なんて、もう無理……」

「はい、胃薬」

迫る来るカウントダウン（パチュリーの寿命的な何か）と現れる過去の敵。

「これはファワード!? なぜ、ここにある!？」

「知っているの、ガツシユ君!？」

「……うぬ！ でっかい魔物なのだ！」

「……………」

そして、明かされる過酷な真実。

「ソウルジエムが魔女を産むなら……私、死ぬしかないじゃない！」

「大丈夫。俺が最後の希、」

「マミなら根性で乗り越えられる!!」

「!？」

魔法と絆が合わさる時、新たな力が生まれる。

「パチユリー、この指輪は……」

「私からのプレゼント。これで晴人は七曜の魔法使いね」

「……サンキュ」

「なのは！ ミニ八卦炉とレイジングハートの出力を合わせるぜー！」

「うん！ 細かな調整はレイジングハートに任せて！ それじゃあ、行くよー！」

「ガツシュ君……私の魔力を、受け取って……これで、あいつを……」

「……これが、フェイトと私の、バオウの力だ!!」

「削板さん。私たち……合体技がないわ」

「そんなもの根性で、」

「どうにもならないわ。だって、あなたの魔法じゃないもの」
「!？」

彼らの戦いの先に待ち受けているものとは 。

「俺が……俺たちが最後の希望だ！」

スーパーマジック大戦の最後の希望

3014年夏公開予定。